



OTO

No.3
2020.1

一般社団法人 東京都作業療法士会 広報誌
編集：東京都作業療法士会 広報部
発行：会長 田中勇次郎

OTOの由来

音といえば、音楽をイメージする方が多いと思います。しかし、鳥の鳴き声や電車の音など、私たちが生を受けた時から周囲にどこくありふれて存在しているものです。

作業もまた『音』と似ています。作業というと、一般的には仕事をイメージする方が多いと思われます。しかし、作業もまた私たちが生まれた時から関わりがあるものです。

今回、『OTO』というタイトルにしました。なかなか一般的に認知されにくい『作業療法』が、『音』のように一般の方にも広く認識していただき、広がっていければという願いを込めました。

障害のある方のためのスマートフォン・タブレットアプリ

『障害のある方のためのスマートフォン・タブレットアプリ』の特集にあたって

東京都作業療法士会 会長 田中勇次郎

スマートフォンやタブレット端末などのモバイル機器は、災害情報通知やキャッシュレス決済などにも使える便利なツールです。しかし、障害児・者が利用するには次のようなことが必要になります。

1. 誰にでも利用できるよう配慮（アクセシビリティ設定）
2. 活用を支援する人（ICTと障害者のことを理解し支援できる人）

このうち、障害児・者へのICT活用支援者の育成についてお伝えします。

1. 東京大学先端科学技術研究センターのDO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japanです。既に12年経過している活動で、①メインプログラム：障害や病気のある中

学生、高校生、大学生などの中から将来社会のリーダーとなる人材を養成するプログラム ②情報提供：学びの困難を抱える小・中学生とその保護者、高校生、大学生などを対象に、テクノロジーを活用した学びの保障について学習するアウトリーチプログラム ③環境整備：学校や教員を対象として、障害のある学生たちの社会参加を支援・促進する活動を協力企業と協同して広げていくプログラム があります。

2. 今年度開始した厚労省委託事業の「ICT技術を活用した障害者の自立・就労を支援する『アシスティブテクノロジーアドバイザー』の育成」です。私も委員として参加しています。内容は在宅雇用を含めた障害者の就労機会を拡大するため、障害の特性

CONTENTS

- ◆『障害のある方のためのスマートフォン・タブレットアプリ』の特集にあたって…①
- ◆進化し続けるトーキングエイド
～開発者とユーザーへの取材から～…②

- ◆WheelLog! みんなでつくるバリアフリーマップ
車いすユーザー同士のつながりが、社会を変える力になる!…⑥
- ◆ICTの活用方法～アクセシビリティの設定とアプリの紹介～…⑨

や程度に応じてICT環境の整備ができるICT技術と障害者に対する支援技術の両面を理解できる人材の育成です。社会人の参加を促すためにe-learning教材作成を実施します。福祉情報技術コーディネーター育成研修のリメイクとも言えます。

3. OT協会制度対策部福祉用具対策委員会が会員向けに実施している「IT機器レンタル事業説明会」です。これは2011年モデル事業として開始しました。アクセシビリティの設定（例えば、画面タッチの時間の調整や繰り返しの無視など）、トーキングエイドfor iPad、重度障害者用意思伝達装置、操作

スイッチの紹介など実習を交えて実施しています。この説明会を受けた方は、この後1か月間機器のレンタルを受けることができます。なお、事業説明会の参加の有無に関わらず、「あいていたいむ」というWeb上の相談窓口を利用して、ICTの活用に関する相談を受け付けています。

上記の1、2と都士会やOT協会との交流や連携を検討する必要があるかもしれません。医療・療育分野をはじめ教育や就労分野においても、作業療法士が障害児・者のICT活用支援者として有用な職種であることをアピールしていくつもりです。

進化し続けるトーキングエイド～開発者とユーザーへの取材から～

●はじめに

トーキングエイドという機器を皆様は詳しい機能や取り扱い方はわからないまでもどのような物かということは聞いたことがあるかと思います。このトーキングエイドの新しいバージョンが発売されたのを機会に、株式会社ユープラス代表取締役小野雄次郎さんにお話を伺ってきました。小野さんは以前は株式会社ナムコ（現株式会社バンダイナムコエンターテインメント）に所属され、その後H24年に独立され現在のユープラスを立ち上げました。トーキングエイドの歴史、利用者さんとのやりとりなどのエピソードについてうかがってきました。

●そもそもトーキングエイドの開発経緯は？

ナムコがロボット開発のアイデアを一般公募したものが元になっています。開発当時は脳性麻痺により会話が不自由な方を対象と考えていました。しかし発売時はパソコンなどの電子機器が一般に普及していない時代でもあり、受け入れてもらえませんでした。そこで全国の重症児施設や養護学校などを訪問し、トーキングエイドを使用していただくと全然意思が伝えられなかった方々がトーキングエイドを触り自分の意思を表し始めるんです。その様子を周りの職員や教師が驚き、話題となって普及が始まりました。

トーキングエイドは来年で35周年になります。1985年に初代のもので発売され、技術の進歩とニ

ーズの多様化に合わせて約5年周期でモデルチェンジしてきました。2003年に発売のトーキングエイドITはインターネットでメールが使えるようになりました。対象者は当初は脳性麻痺の方でしたが、脳血管障害後遺症の方、発達障害の方、神経難病の方が増えてきました。ヘビーユーザーの方は様々な機能の要望が増えていますが、高齢の方や初めて使用される方は複雑な機能は要らないということでシンプルな機能のトーキングエイドライトも販売しました。



写真：歴代のトーキングエイド

●iPad版の作成経緯は？

それまでは専用機での販売でしたが2012年にiPadで利用できるApp版、トーキングエイドfor iPadを発売しました。iPadという汎用機の利点は多様なニーズに対応できたり、開発費用を抑えられるので価格を安くできることです。中途障害の方のご要望で手軽に導入したいというご意見が多く、例え

ば父親が脳血管障害で話せなくなった時に「お父さんiPadに入れてきたよ」と気軽に導入できるメリットがあります。また、特別支援学校などではトーキングエイドの専用機を何十台も導入することは難しいですがiPadは一人一台あることが多いので、そこにアプリを入れるだけの手軽さがあります。

●再び専用機が開発された経緯は？

iPadは他の利用目的でも使用できるので多くの自治体は日常生活給付の携帯用会話補助装置として認められません。実際にトーキングエイドfor iPadのユーザーの中にはSNSの使い方が分からない、ゲームが途中で止まってしまう、などのトーキングエイドとは関係のない問い合わせもあり、自治体が専用機に給付を絞る理由も理解できました。このような経緯もあり再び専用機であるトーキングエイドプラスを発売しました。この新しいトーキングエイドプラスはApp版よりもさらに多くのニーズを取り入れています。App版ではテキスト入力版とシンボル入力版は別の製品として販売していましたが、昔は高齢の方は絵文字のようなものは使わないという方が多かったのですが、最近は高齢の方でもLINEでスタンプを使用するように絵文字に抵抗がなくなりニーズの高まりを受けトーキングエイドプラスではどちらの入力方法も使用できるようになっています。

<専用機の利点（一部）>

- 1 シンボルやメッセージでスピーディーに会話可能
- 2 ユーザーニーズに合わせたカスタマイズが可能
- 3 子どもから高齢者まで様々な対象者が利用可能
- 4 全ての操作が外部スイッチでも利用可能
- 5 軽さ（重さ700数十グラム）
- 6 メールアドレスを登録できるため送信が容易
- 7 5か国語への翻訳が可
- 8 表示文字の大きさやキーボード配置を変更可
- 9 新フォント（UDデジタル教科書体）の導入

文字の表示や配置などユーザーごとにカスタマイズできる機能はApp版よりも優れています。設定を色々変更しても初期設定に戻すこともできますし、複数の方で共有する場合にカスタマイズしたものをメモリーが続く限り無限に保存することもできま

す。無効時間や二度押し防止機能のための設定も保存できます。いろんな機能を使って新しい使い方をユーザーの方が発見してくれることもあります。視覚障害の方がキーの位置を確認するために、タッチすると読み上げてくれる音声読み上げガイド機能と、二度押し防止のための無効時間設定機能を組み合わせ、一回目のタッチでキーの位置を確認して、目的のキーにあったら無効時間よりも長押しして文字を入力する、という使い方を発見されたこともありました。どちらかというところトーキングエイドの進化は技術の進化もありますが、対象となる人をできるだけ広げようという進化もしています。もう一つ、対象は限られますが、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語の翻訳機能も付きました。介護ヘルパーの方がフィリピン出身の方で細かい要望を伝えるために翻訳機能を使っている方もいるようです。翻訳機能はマイクロソフトのTranslatorを使っているので正確性はそちらに依存しています。

インターネットにつなげるとメールも使用できます。最近メールを使いたいというニーズが増えていますね。その理由は、家族とか身近にいる人は、表情とか「あー」とか声のニュアンスである程度意思疎通ができてしまって、意思伝達装置を使うことを辞めてしまうことがあるんですが、メールが使えるとまた違ったモチベーションになって使ってみようかなとかいう方が増えていますね。昔の学校の先生に送って返ってきたら嬉しいですね。

専用機になりましたので誤入力を防ぐキーガードも用意しました。キーの配列や厚さなどの基本は35年前から一緒です。キーの厚さは3mmですが、あまり薄いとタブレットでは反応してしまうので、3mmくらいが丁度いいみたいです。またマウスや外部スイッチなどもUSB端子によって接続できるようになっています。

●トーキングエイド導入のための工夫

肢体不自由の方で押し間違えてしまう方に対しては下敷きを切り抜いたり、手袋の指先の部分だけあけたり、リングでスタイラスペンを固定して他が反応しないように工夫して使えることが多いです。ただ、知的障害の方や意欲の低下した方に使って頂くにはかなり工夫が必要です。シンボル入力は画面の表示が1から40個まで増やせます。重度知的障害

のお子さんで、自分が何かに触ったことの結果としてどんなことが起きるかを理解できない子がいますよね。そんな子に対してシンボル2つから始めてどちらかを触ると好きなおもちゃや食べ物がもらえるといった訓練から始められます。学校で子供たちをみていると、iPadでゲームはできるけれど自分の意思を伝えるのにハードルがあるお子さんが多いように感じます。何々を触ってね、と言われると触れるけれど何が食べたいの？と言われるともじもじして触れないとかですね。そういったお子さんへの導入時にまず二つから選んでね、それができたら4つから選んでね、という風に発達段階に合わせた使い方もできるかと思います。場面緘黙のある自閉症のお子さんがこれを使うようになったら自分で喋れるようになって、最近ではお喋りになって逆に困っちゃうくらいだと言われるようなこともありました。だから機械の力ってすごいなって思います。

●作業療法士へのメッセージ

トーキングエイドが誕生して、早いものでもう34年が経ちましたが、これだけロングセラー商品として続けてこられたのは、ユーザーの皆様への応援や中間ユーザーである作業療法士の皆様のご支援があったからだと思っています。優れた支援機器やIT機器があっても、それらの機器を障害者が利用するためには、適用、セッティング、使い方の指導といったサポートが必要であり、それらを作業療法士の皆様が担って頂いていることに大変感謝しております。これから、IOTやAIといった技術でますます世の中が進化し、障害者の生活を豊かにする支援機器が生まれてくるものと思われます。作業療法士の皆様には、これらの機器を障害者が活用できるよう、コーディネーターとしての役割を担ってくれる人た

ちが今後も増えていくことを期待しております。

●ユーザーからのコメント

立川市在住の飯野幸江さんは脳性麻痺の女性です。電動車いすのダンスサークル“アスター”で活動しており、「踊っていると何もかも忘れていから楽しい。生きがいかな」と話されていました。そんな幸江さんのトーキングエイドへの思いを語って頂きました。

私とiPadのトーキングエイドの出会いは今から10年ぐらい前の国際福祉機器展でした。トーキングエイドをそろそろ変えたくって色々調べていました。それまで使っていたナムコのトーキングエイドがなくなると聞いていたので、余計に焦り探していたらiPad版トーキングエイドとの出会いがありました。学生時代はMacのパソコンを使っていたこともあり、世界に通用するiPadで使えるということが決め手でした。最初はiPadって何？という感じで使い方もわからずに苦労し、バンダイナムコのトーキングエイド勉強会にも行きました。今は使いこなせるようになり、iPadではLINE、Facebook、Amebaブログなどのアプリも使っています（トーキングエイドを使う時以外はキーガードを外して使用）。本当に良かったと思います。音楽を聴いたり、ゲームをしたり、絵を書いたり、動画を見たり、メールをしたり全てにおいて使っていますが、コミュニケーションにおいて自分の言語の問題のために、なかなか人に言葉で思いを伝えられないという苛立ちがあったので、トーキングエイドにはとても助けられています。他の意思伝達装置であるパソコンでは立ち上げにすごく時間かかるので大変でしたが、iPadだけで意思を伝達ができるようになりました。トーキ



写真：事務所での取材風景（左：小野さん）



写真：トーキングエイドを使う幸江さん



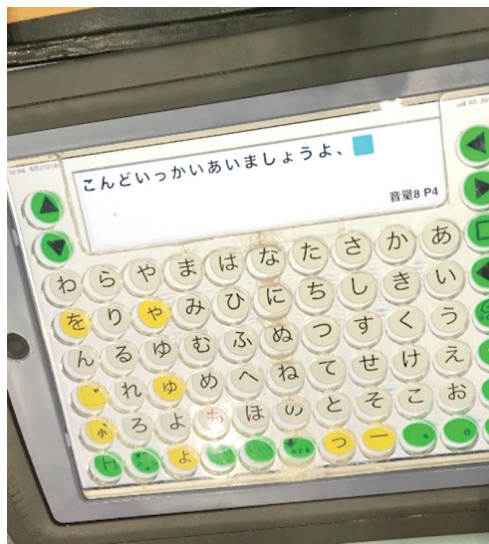
写真：車いすダンスをされる幸江さん



写真：左から小野さん、あやのさん、幸江さん

ングエイドの機能もかなり良くなっています。以前にはトーキングエイドの昔の製品を使っていました。(ゴツツイ・重い) トーキングエイドで話すとロボットと会話しているのも悔しかったから私は私の言葉になるように言い回しとかも考えたりしました。17.18.19才ぐらいの時は声が全然出ないのに親に理解もされませんでした。施設に入ってトーキングエイドを使い始めました。そうしたら声も出始めて今はどっちも伝えられています。昔はこういう機械を使うと声が出なくなるからっていう人もいました。でも反対ですよ、と言いたいですね。今はトーキングエイドと電動車いすが私の相棒です。トーキングエイドのおかげで世界は広がっていますね。小野さんには感謝しています。

幸江さんに取材にうかがった1週間後、国際福祉機器2019のユープラスのブースで幸江さんと再会できました。そこで偶然、トーキングエイドユーザーの世田谷区在住の五十嵐あやのさんと出会う、お二人がやりとりされていました。あやのさんの付き添いの方は「トーキングエイドがなかったらあや



写真：幸江さんからあやのさんへのメッセージ

のじゃなかった」と話されていました。トーキングエイドで繋がりができていく、その瞬間を目にしました。

●取材を終えて

トーキングエイドはもちろん知っていましたし、手に触れたこともありましたが、35年ものロングセラーで時代のニーズに合わせて今も進化し続けていることは今回初めて知りました。小野さんのお話を聞き、常にユーザー目線で改良を加えてこられたのだと感じました。今回ユーザーの方2名とお会いすることができましたが、お二方とも、トーキングエイドがなかったら自分じゃなかった、とおっしゃっていました。つまりトーキングエイドのない人生なんて考えられない、ということでしょうか。そのような機器とユーザーの方を結び付けられるコーディネーターとしての役割を作業療法士が担っていけるとよいなと感じました。(広報部 水口寛子)

取材を通しトーキングエイドの最新版に触れて説明を受けて当たり前のことですが最新のものは様々なところが改善されており使いやすくなっていると感じました。自分の知識は古いもののところで止まっていたのでそのためにユーザーの方々へ必要な情報を伝えることができていなかった可能性があったのではと感じました。作業療法士が機器や用具の専門家としてアピールをするならば新人のみではなくベテランも最新の情報を知り知識を拡充する必要があると思いました。(広報部 池上 洋)

WheelLog! みんなでつくるバリアフリーマップ

車いすユーザー同士のつながりが、社会を変える力になる！

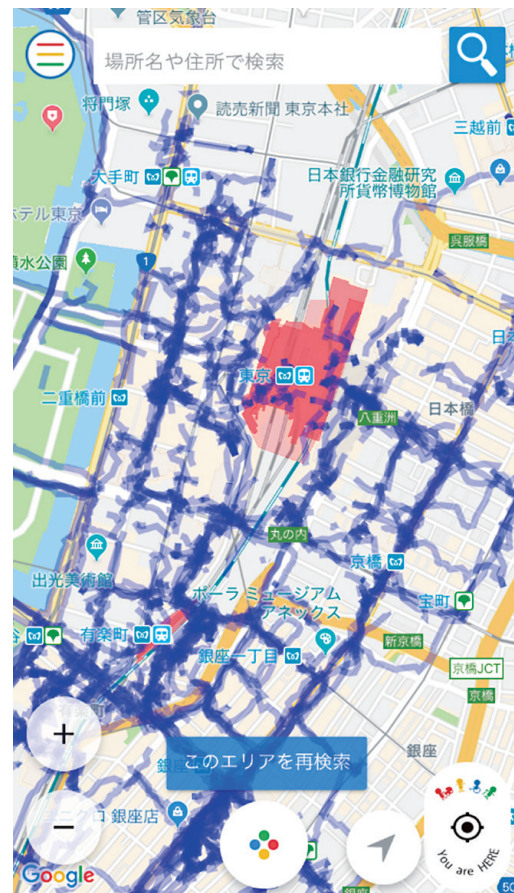
みなさんは『WheelLog!』（ウィーログ）というアプリをご存じだろうか。これは、『みんなでつくるバリアフリーマップアプリ』である。このアプリの機能は、多目的トイレや飲食店等の写真やコメントをつけて投稿する「スポット投稿」機能。さらにWheelLog!内のマップ（グーグルマップ）に車いすユーザーが通った経路に色がついていく「走行ログ」機能もある。これにより車いすを使用しているユーザーが出かけようとして外出先を調べた際に、他の車いすユーザーが通った経路がグーグルマップ上で可視化され、尚且つその経路上でトイレや食事が安全にできる所が写真とコメント付きで分かるため、外出計画を立てやすくなるというわけだ。そうして外出したユーザーが増えると、複数のユーザーが利用した経路の配色は濃く太くなり、そこがより安全だということが目に見えて分かるようになる。さらに投稿自体も増えることで、より多くの行きたいところへ外出することができるというわけだ。

今回、このWheelLog!を立ち上げている織田友理子氏へ話を伺う機会を得た。尚、取材月は7月だったが、織田氏はその1か月後に日本テレビの24時間テレビに出演したことも付記しておく。

—まずは織田氏にアプリを作った理由を伺った

織田氏「車いすでここに行けるよ、またはここはバリアがあってここは無理だったみたいな情報をみんなで共有することによって、車いすユーザーだけでなくその周辺の家族や親戚、友達などいろんな人が、車いすの人が身内にいることによって外に出られなかったという現状を変えていけるのではないか。」

障がいがあることで外出しにくいのは、当事者だけでなくその家族にも及ぶという背景がある。障がい者に配慮したというトイレやレストランなどは目にする機会は増えてきているが、実際にユーザーが利用すると使い勝手が悪い（むしろ使えないこともある）ことも多いそうだ。その結果、車いすの人は



青色は車いすユーザーが通った道

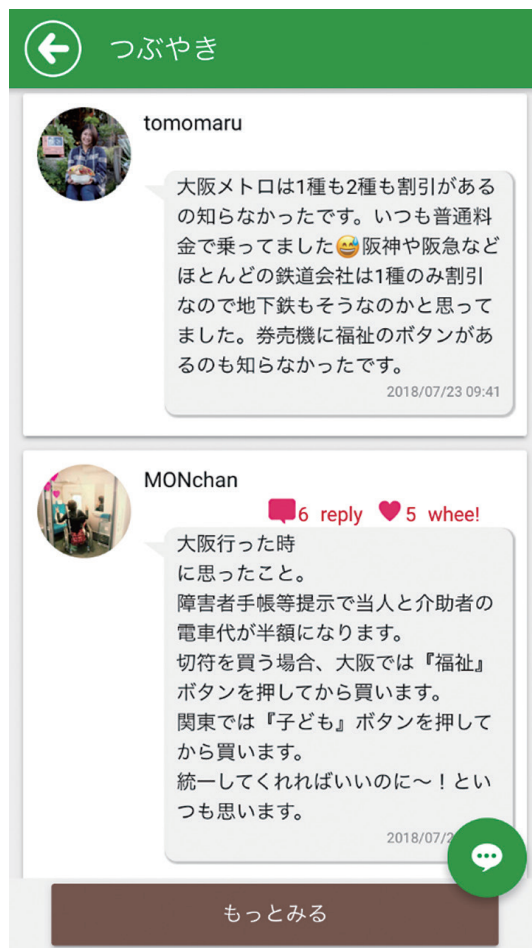
やっぱり外に出られないと諦めてしまうケースも少なくない。そこで織田氏は、実際に使用した状況や場所などの『情報』を共有する場をつくることで、車いすユーザーが自由に外に出る機会を創出しようとしている。そして多くの車いすユーザーが外出をすることで、より有用な情報が増え、車いすユーザーの世界を変えるということに繋がる。織田氏は日本を世界一のバリアフリー先進国とする目標を掲げ、車いすでもあきらめない世界を創造することをミッションとして活動している。

—ただ、一人の思いだけでアプリ作成にまで至るといのは、なかなか出来ることはない。これまでの背景や開発までの経緯についても伺った。

織田氏「大学4年生の頃は大学と専門学校といわゆるダブルスクールしていて、公認会計士を目指していました。夢に向けて挑戦する日々だったのですが、ふと自分の体を振り返ってみると足元がおぼつかなくなりおかしいなと感じていました。両親に内緒で病院に行こうと思ってはいたのですが——。ある時、親にも足の痩せすぎを指摘され、とうとう通院したら遠位型ミオパチーの診断を受けました。22歳の時でした。その時はかろうじて歩けたのですが、25歳になる手前でお医者さんから早く出産しないと産めなくなるよと言われてしまいます。22歳の時に診断を受けたときから今の夫と一緒に通院していたのですが、話し合ってから25歳の時に結婚、26歳で出産しました。それからは歩けなくなり車いす生活となりました。そこからは2008年より患者会活動、当事者運動を始めました。遠位型ミオパチーの患者会、今はNPO法人化していますが、そこの代表も今やっています。」織田氏は穏やかな笑顔でそう話すも、20代での中途障害の発症は、当時は相当にショックな出来事だったはずだ。しかし、彼女はそれについて「ちゃんと病名をつけてくださってありがとうございますという気持ちが大きかったです。」という。ただ、出産の件についてはショックだったらしく、そこでこれまで以上に将来的なことなどに真剣に向き合うきっかけを得たという。少しずつ目の前の見えていることに堅実に取り組もうとしている彼女からは確かな芯の強さがうかがえる。

—YouTubeでの活動からGoogleインパクトチャレンジのグランプリ受賞へ

織田氏「私自身が車いす生活となった時に、どうやって生活していけるのか分からなかったのが、YouTubeの『車椅子ウォーカー』というパリアフリー動画情報番組を始めることで、様々な外出先の情報を得たり、それを紹介したりしていました。しかし、このままでは私にいくら時間があっても…というか一生かかっても全てを紹介することはできないなとも感じていました。そこで、人と人がつながる、それによって満たせるパワーや、そのつながりによって励まし、励まされ、いろいろな人が触発を受けたりとかそういうことをオープンなアプリで実現出来たらいいなと思って。その後は2015年にNPO法人向けに開催されているGoogleインパクト



場所ごとの投稿から情報を得ることができる

チャレンジというイベントで企画を出してグランプリを受賞、そこで開発費を得ることができました。そこからアプリを作ろうと開発業者に依頼。開発に2年間かけて2017年5月26日にリリースしました。28日のリリースイベントには小池都知事にもお越しいただきました。」

—開発には伊藤史人氏（島根大学総合理工学研究所 助教）や吉藤オリィ氏（株式会社オリィ研究所 代表取締役所長）をはじめ多くの方もボランティアスタッフとして関わっている。こうした方との関わりについて、織田氏はSNSの活用を挙げる。

織田氏「やはり現代だからこそSNS等で人から人への繋がりが多いですね。このアプリの持つ力というかポテンシャルというか、価値的なものだと思われていた方が、これはすごくいいと言って人から人に伝えていってくださる。なので、特に作業療法士の先生方ですと患者さんに対してもっと情報を提供したいとかいろいろな思いを持たれながら日頃の業務にあたっていらっしゃると思います。そう

いった先生方が、やはりこれは伝えていくべきだ、特に自分たちが伝えていくべきだとおっしゃって下さるので、私は一患者の身ですが、こういった活動をしてすごくやりがいを感じますし、やってよかったなと思っています。」

一この取材中、神奈川県小田原市を中心に活動している作業療法士の初鹿氏にもご同席いただいた。初鹿氏もWheelLog!に魅せられた一人だ。

織田氏「リリースしてからすぐに、熱いメールが届きました（笑）」

初鹿氏「街歩きイベントを浅草でやったよという報告があって、そのイベントを小田原でもやって欲しいという感じで打診をしたら、逆に小田原でやってくださいって連絡が来て、あーそうですか！じゃあ小田原でやりましょうということに（笑）」

織田氏「各地域で立ち上がった人たちが中心となってやっていくスタイルがすごくいいと思います。私も全国各地へ行きたいのですが、いろんな人の力を借りないと出来ない。例えば車いすの調達をどうするのか、会議室や会場をどうするのか、どうやって人を集めていくの等、様々な課題がありますね。なので、その地域に住む人たちとタッグを組んで…というかむしろその人たちが主催になって頂きたいで

すね。特に小田原が一番熱かったです」

小田原では、このイベントをきっかけにWheelLog!の投稿を利用して、紙媒体で歩行困難者向けの観光バリアフリーMAPができた。

WheelLog!内での投稿が集まれば集まるほど、観光地での充実したバリアフリーマップとなるだろう。そうすると、来年のオリンピック・パラリンピックに限らず、より多くの歩行困難者が観光に来てくれるはずだ。そう考えていくと、これは単に福祉的な話だけでなく、日本経済にも寄与できるアプリということになる。今後わが国の経済発展に、車いすユーザー等の障がい者同士の繋がりが重要な役割を果たす時がくるのではないだろうか。

～取材を終えて～

ノーマライゼーションという言葉がある。障がい者や高齢者がほかの人々と等しく生きる社会・福祉環境の整備の実現を目指す考え方である。そのための環境整備が進められているが、一方で真に使いやすいものばかりとは言えないことに気づかれるきっかけとなった。解決のためには、当事者たる障がい者や高齢者自身が声を上げていくことが最も早いし効率が良いのであろう。そうした声を挙げやすくしていくために、作業療法士はいち早く自信をもって社会に参加できるよう、制度や公的な資源ばかりを把握するのではなく、こうしたアプリや新しい民間の取り組みにも目を配り、情報提供していくことも必要ではないだろうか。

（取材：田邊 由紀江、中川路 匠 執筆：中川路 匠）



織田友理子氏と夫・洋一氏（右）、作業療法士の初鹿氏（左）

ICTの活用方法～アクセシビリティの設定とアプリの紹介～

広報部 山崎 仁智

子ども委員会でおすすめアプリ集を作成しました。その中で、アクセシビリティの設定の話を掲載しました。リハビリテーションで活用する中で、情報を整理して提供することが大事になると思います。iPadを使用する中で活用できるアクセシビリティを抜粋して紹介できたらと思います。更新されていくので、設定の仕方が変わる場合がありますが、アクセシビリティの設定があるのを知っているのと知らないのでは差があります。機械が苦手な方でも苦手意識が少しでも減らすことができればと思います。

紹介するのは、①アプリの広告を触れないようにする方法②有害な広告のブロック③アプリが変わるのを防ぐ④スイッチ・マウスの使用方法を紹介したいと思います。またOSが更新されて、iPadでもマウスの使用ができるようになり、キーボードを活用すればiPadがパソコンのように使えるようになっています。iPadの設定は基本的に「設定」からできます。アプリの紹介とともに活用方法を記載したいと思います。

「DFree」とは、超音波センサーで膀胱内の動きをモニター・分析し、排尿のタイミングを予知し排尿前後のタイミングが来ると、モバイル端末に通知するICT機器です。

トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社に伺い、DFreeについて、今後の展開やOTに期待する事など、お話を伺ってきました。

●iPadのアクセシビリティの設定

①アプリの広告を触れないようにする方法

子どもにアプリを使用させると、多くの広告があります。

インターネット環境が必要でないものであれば、インターネット接続の切断や機内モードにすることで接続できなくなりますが、ネット環境が必要なアプリでは使えなくなってしまう。そこでこの設定をすることで、広告をタップする事を限りなくできなくできます。

また、アプリの使用を制限できるため、ロックの解除のパスワードを親だけが覚えていれば、学習アプリを一つ限定ではありますが使用できるようになります。

「一般」→「アクセシビリティ」→「アクセスガイド」
※ホームボタンを3階押すこと変更解除・設定ができます。

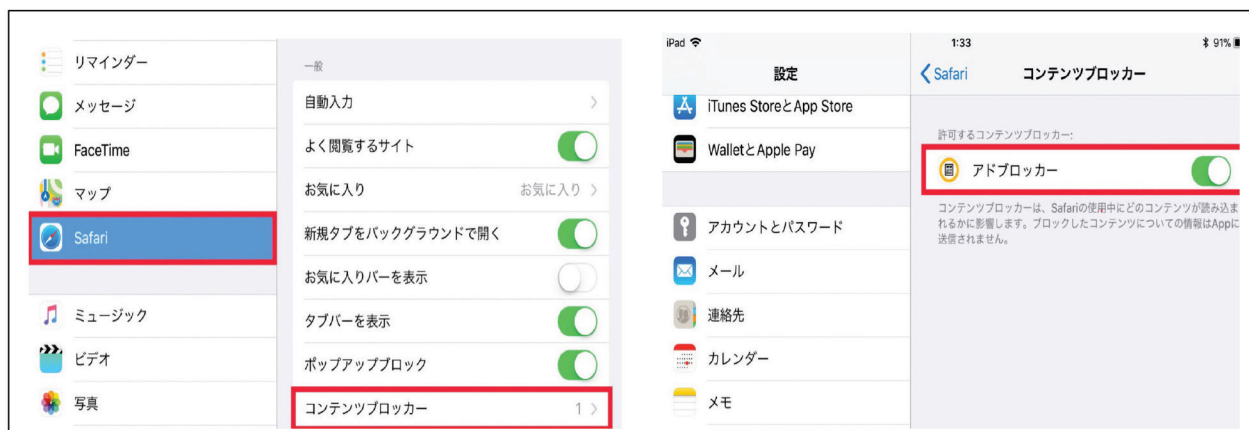


②有害な広告のブロック

子どもに見せたくないネットの情報のブロックができます。

インターネットの閲覧中のページの不利益な広告を見えなくなります。この設定は、子どもの閲覧以外にも普段使う場合もネットの動きがよくなります。お好みの広告ブロックをダウンロードしてください。

「App Storeで広告ブロックをダウンロード」→「Safari」→「コンテンツブロッカー」



③画面が変わるのを防ぐ

使っていて画面が変わってしまうことがあります。とても便利な機能ですが、子どもたちが遊んでいるとほかの画面に行き、遊びが止まってしまうことがあります。

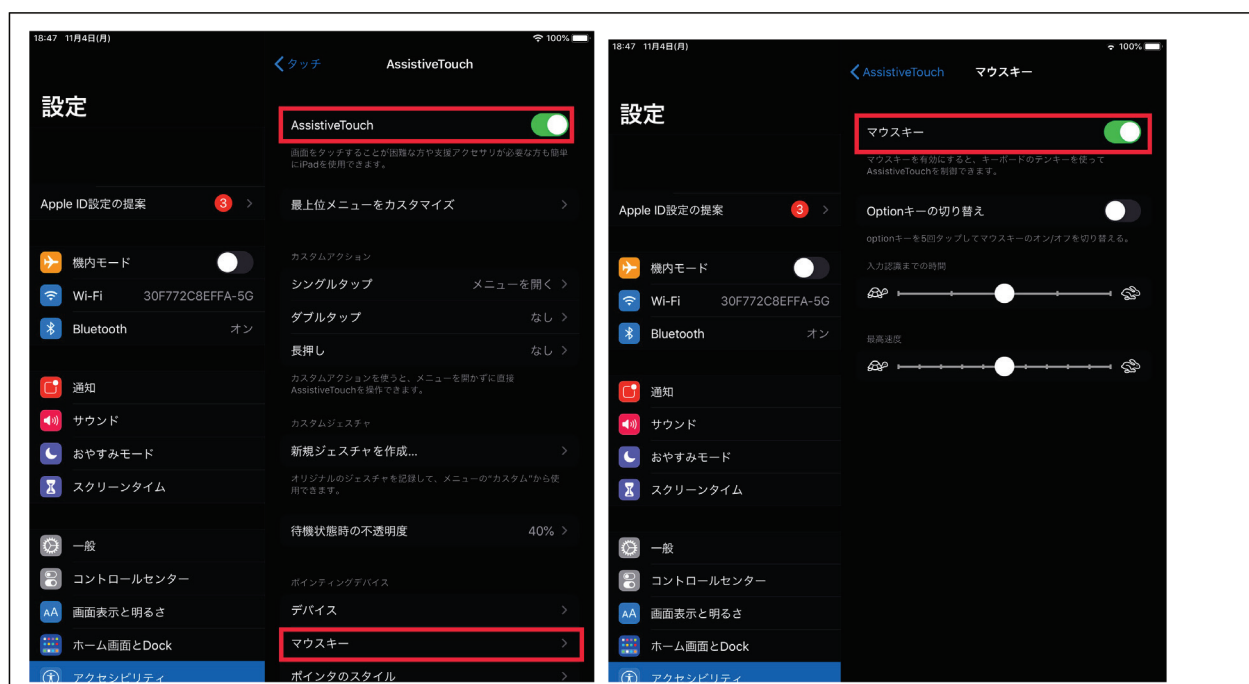
「一般」→「マルチタスクとDock」→「ジェスチャ」



④スイッチ・マウスの使用方法

iPadをパソコンのようにマウスで使用することができます。「Lightning to USB Camera Adapter」とマウスを接続します。USB端子やBluetoothで接続できるものなら接続して使用することができます。マウスを改造することでスイッチ操作を行うことも可能です。

「アクセシビリティ」→「Assistive Touch」→「マウスキー」
 ※「ポインタのスタイル」カラーとサイズが変えられる。



※マウスポインターの色や大きさも変えることができます。



iPadでは、その他に視覚支援のために色彩や文字の大きさ・太さを変更ができる事や読み上げる機能があり、補聴器との連携もできるそうです。

※androidでもアクセシビリティはありますが、メーカーが違くと設定の仕方など試すことができず掲載することができません。初期設定ではできずにダウンロードしてからの使用になるそうです。

●アプリの紹介

いざ、iPadを手にしても何をしようか、何のアプリで遊んだらよいかわからないと思います。使用する方の能力や興味に合わせて選択する必要があります。また周りの支援する方が使用方法をある程度理解しておく必要があります。

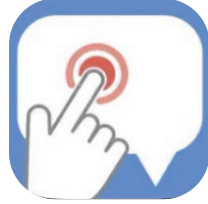
色々なアプリが出て消えることが多く、データの更新に伴い使用できなくなるものも少なくありません。無料で使用できるアプリも多く存在していて、使用しやすいものをいくつか、選び記載したいと思います。

① 画面を触れただけで動く・鳴る

	ピアノあそび 設定を変えることでどの場所を押しても音を鳴らすことができます。(回数制限あり)	 ゆびつむぎ かわいい絵がタップすると動きます。(2つのみ無料で遊べます。)
---	--	--

② 押す・押し続ける

Glob Trotters、伝えるボタン

	Glob Trotters 画面の長押しと放すことで遊びます。	 伝えるボタン 3つのボタンに録音して使用します。
---	---	---

③ 作る・体験する。

ごっこランド、わたしのはらぺこあおむし AR

	ごっこランド なぞることで、お仕事体験ができます。	 わたしのはらぺこあおむし AR AR を使い遊びます
--	-------------------------------------	--

④ コミュニケーション支援

こえとら、もじと〜く！

	こえとら 文字を打ったり書いたりすることでコミュニケーションをとります。	 もじと〜く！ 簡易的な文字盤です。
---	--	--

※ OTO に掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-4-1 新宿Qフラットビル501

TEL : 03-6380-4681 FAX : 03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。